

～ 小児看護専門看護師の役割と活動 ～

私は、大学卒業後、本院のNICU・GCU病棟に勤務しました。NICU・GCU病棟で働きながら、子どもや家族にとって本当にこれで良いのかと生命倫理で悩むことや、複雑で解決困難な問題を抱える子どもや家族の看護ケアを医療者間で話し合っても方向性が見出せないこともあり、自分の小児看護学の知識不足を感じるようになりました。また、看護師間で看護ケアを検討する際、その看護ケアが倫理的にも論理的にも、子どもの発達にあった看護ケアなのか相談できる人が少なく結論が曖昧になることもありました。小児の専門的な知識を持ち、子どもと家族の視点で物事を考え、看護師としてどのように関わることができるかと考えた結果、小児看護学を勉強したいという思いが強くなり、大学院への進学を考える動機となりました。その後、大学院に進学し、2020年に小児看護専門看護師を取得しました。



小児看護プロジェクトの様子

現在、総合外来センターに所属し、小児看護専門看護師として活動をしています。主に、育児に不安がある家族への支援、在宅での医療的ケアを行っている子どもと家族への療養支援、成人患者さんのお子さんへの関わり方などへの支援を行っています。

小児看護専門看護師は本院に私を含め3名、八千代医療センターに1名が在籍しており、八千代医療センターと足立医療センターと共同で「3施設合同小児看護研修」の企画・運営を行っています。大学病院で小児看護専門研修を行っている病院は少なく、看護経験を積んでも学び続けることを支援するため体系的な継続教育を提供できるように努めています。新型コロナウイルス感染症の流行時はオンライン研修での開催でしたが、現在は集合での研修を開催しています。参加者と小児関連部署のニーズを考慮しながらクリニカルラダーレベル別の研修コースを企画し、小児部署で働く参加者のモチベーションの維持、小児看護の質の向上になるように取り組んでいます。また、院内では、小児関連部署の看護師と一緒に、子どもの最善の利益を守ることを目的に「東京女子医科大学病院子ども憲章」の作成・普及や、子どもと家族が安心した入院生活を送ることを目的としたオリエンテーション内容の検討など、「小児看護プロジェクト」の活動を行っています。

小児看護専門看護師として働き約5年になりますが、まだまだ新米です。皆さんと一緒に子どもや家族にとって最善の利益を一緒に考え、支援を行っていきたいと考えています。